



## 十勝ほ育育成牛受託協議会の発足と 運営支援から

十勝農業改良普及センター十勝東部支所  
平成27年度十勝畜産技術セミナー発表H28. 2.22

# 設立の経緯

豊頃町(株)シー・ブライツ桐山代表取締役より

## ○ 預託する酪農家の問題点

規模拡大に伴う  
労働力の不足

預託前のほ育  
時点での疾病  
増加

育成牛飼養管  
理もおろそか

## ○ 受託会社での問題点

経営・運営面で、様々な悩み  
や問題を抱えている

十勝管内の受託会社全  
体が、情報交換などを通  
して技術向上や経営効  
率化などを図る必要あり

普及センター  
畜試・家保  
十勝農協連  
NOSAI

連携  
支援

ほ育育成牛預  
託組織の設立

組織化



## 十勝管内各受託会社の課題

- ほ育育成技術の向上
- 伝染病対策
- 預託者へ子牛誕生前後の飼養管理改善
- 組織の運営改善等

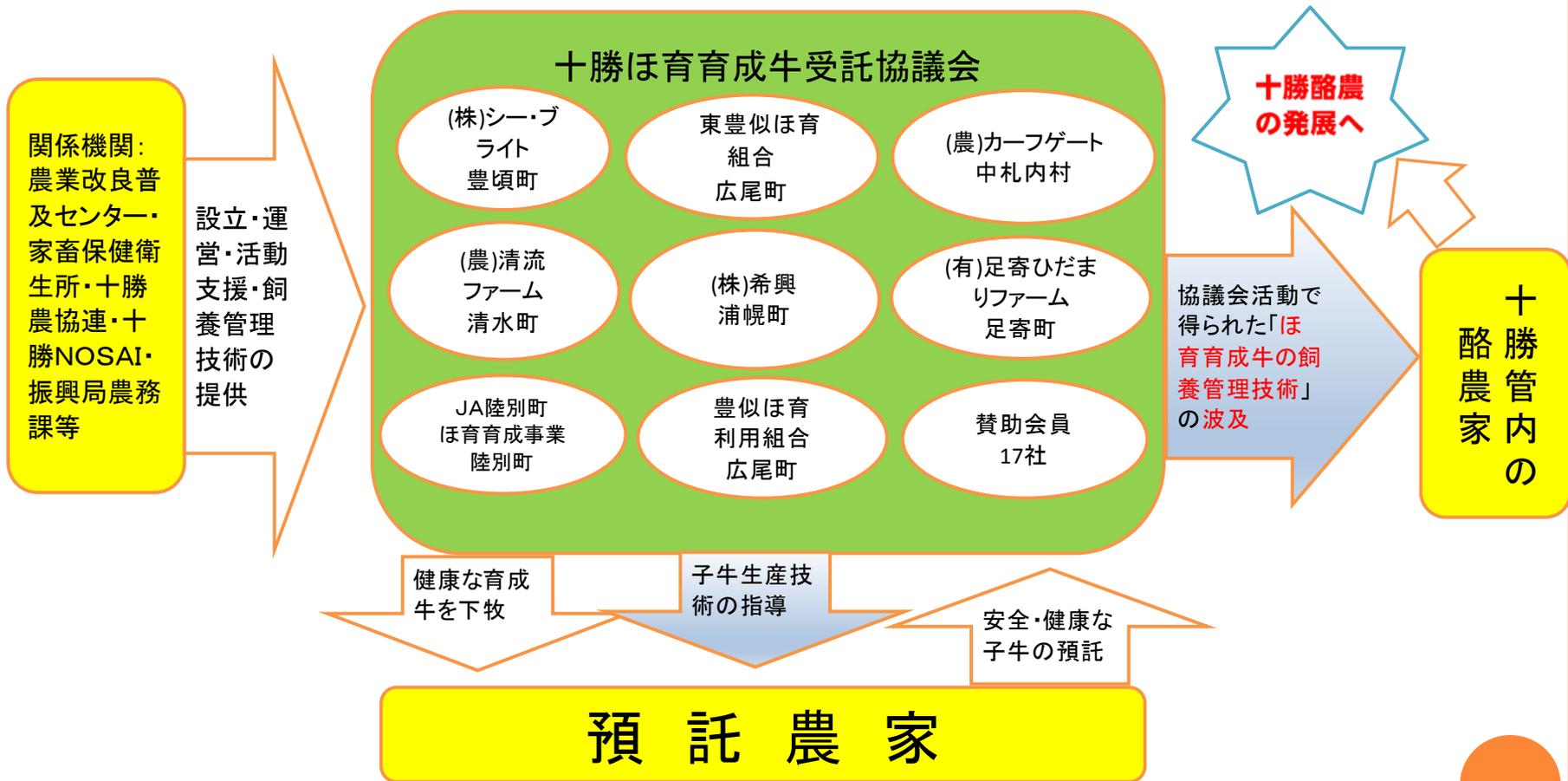
改善へ  
組織化

平成26年4月

十勝ほ育育成牛  
受託協議会設立



# 活動支援のねらい



# 設立までの流れ

## ①普及センター内での対応検討

普及センター主任、合理化主査、管内畜産担当で、事務局の持ち方や活動支援方法等について検討

## ②設立準備会の開催

十勝管内各普及センター本・支所を通して、複数戸で構成する受託会社を調査

案内を送付し、当初8社が名乗りを上げた

## ③設立会議

設立には7社が集まり、目的・活動内容・規約など協議し、  
設立



## 1 会員

		組織名	代表者名	場長名	構成戸数
1	豊頃町	株式会社 シー・ブライト	桐山 靖朗	景山 正志	16
2	浦幌町	株式会社 希興	三宅 英彰		11
3	中札内村	農事組合法人 カーフゲート	福原 一斉	阿部 淳也	13
4	広尾町	東豊似ほ育組合	川崎 和雄	川崎 恵	6
5	広尾町	豊似ほ育利用組合	斉藤 美富		6
6	清水町	農事組合法人 清流ファーム	藤井 稔	中村 正勝	9
7	陸別町	陸別町農業協同組合	西岡 悦夫(代表理事組合長)	田守 健一(畜産振興課長)	
8	足寄町	有限会社足寄ひだまりファーム	沼田正俊		4

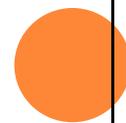
## 2 賛助会員

1	飼料販売会社	10社
2	動物医薬品会社	4社
3	農業施設機械・農具販売等	3社



表 各組織の支援内容と役割

	協議会役員	普及センター 本・支所	家畜保健衛 生所	畜産試験場	十勝農協連	振興局
総会・運営会議等資料の作成	○	◎				
研修会・情報交換会等運営・相談	◎	○	○	○	○	
飼養管理・経営管理等の資料作成		◎	○	○		
国・道等の事業連携	○	◎				○
協議会運営事務	○	◎				
協議会会計	◎	○				



# 具体的活動経過

## 受託会社の運営支援

- 協議会員の組織受託状況調査を行い、とりまとめ運営に関する情報共有を進めた(畜産試験場技術普及部、普及センター支援) 5社。

- 項目：
- 1 組織概要
  - 2 施設・機械保有状況
  - 3 導入前の管理
  - 4 飼養管理技術
  - 5 環境・施設機械の活用実態
  - 6 受託頭数の推移
  - 7 ほ育育成プログラム状況
  - 8 作業時間・内容チャート
  - 9 群分けの方法
  - 10 見取り図
  - 11 その他関係機関連携等



組織代表者  
会議、実務  
者勉強会な  
どで経営運  
営について  
活用



## B 導入前の管理 1

No	項目	(株) シー・ブ ライト	(株) 希 興	(農)カーフ ゲート	(農)清流ファーム	東豊似ほ育組 合
1	受入時の確認事項					
	① へその緒消毒	○	△(状態次第では有り)	×	○	○
	② 初乳の品質・給与量	○	○	○	○	○
	③ 添加剤の有無	○	×	×	×	○
	④ 産次数	○	×	×	△(初産・経産区分のみ)	○
	⑤ 分娩難易度	○	×	○	×	○
	⑥ 介助の有無	○	×	○	×	○
	⑦ 周産期病の有無種類	×	×	×	×	○
	⑧ 分娩乾乳期の管理方法	×	×	×	×	×
	⑨ 母牛へのワクチン接種	○	×	×	×	○
	⑩ その他		病歴(下痢・風邪等)	なし	下痢など	初乳加温殺菌器の活用



## B 導入前の管理 2

No	項目	(株) シー・ブ ライト	(株) 希 興	(農)カーフ ゲート	(農)清流ファーム	東豊似ほ育組 合
2	受入判断担当者	場長	受託者	受託者	受託者 (場長)	預託者
3	受入時間	午前中	基本午前中	午前中	午前中	基本的に午前中
	① 着地検査 実施有無	有	有り	あり	なし	有り
	② 検査項目	血液 体重 体高	糞便：サルモ ネラ	糞便：サルモ ネラ	血液 (血清タン パク) 糞便 (サルモネ ラ)	糞便 (サルモネ ラ)
4	虚弱牛など受 入拒否の判断	両 者	両 者 ・ 受託者	両 者 ・ 受託者	両 者	両者立ち会い 下判断
5	隔離施設の有 無	有	有り	有り	あり	有り
	① 施設の概 要	ビニールハウ ス内ハッチ	D型	導入舎・外 ハッチ・牛舎	カーフハッチ	ハッチ
	② 有りの場 合の設置 理由	感染の恐れのある時 重症牛の場合	着地検査が出るまでの待機 施設として利用	導入舎：着地 検査待機施設 外ハッチ：サル モネラ陽性 牛等 牛 舎：ヨー ネ発生農家専 用	着地検査結果が出るまでの待機 施設。ロボット 導入前の予備哺 育 (2週間)	着地検査、病 畜牛の治療、 ロボット飼養 頭数調整
6	導入日の施設 飼養管理	導入日の朝は 哺乳しない。	待機施設にて 様子を見る	個体管理：導 入日の朝、預 託者側で ニュートリ トップを給与 してもらう	特になし	ハッチで様子 を見る

## B 導入前の管理 3

No	項目	(株) シー・ブ ライト	(株) 希 興	(農)カーフ ゲート	(農)清流ファーム	東豊似ほ育組 合
7	初乳を飲んでいない場合の対応	血清タンパクの確認		得になし	血清TPによりFTPが疑われる場合、ミルクにアミノ酸製剤添加。場合によって80哺乳。	特に気をつけて観察する
8	群へ入れる際の考え方	サルモレラ検査結果 下痢の状況 その他健康状態	検査で問題がなければ群飼いに移行	基本は1週間分の集荷した牛で1ロットをつくる。	下痢の状態と、体格差。虚弱など。	ハッチで1ヶ月哺乳後
9	現在の受入条件での問題点	特になし	問題ない	ニュートリトップの給与が徹底されていない。	特になし	なし
10	下痢対策及び発生時の対応		基本隔離施設へ移動後脱水予防として経口補液投与	常時：生菌剤の給与 下痢時：電解質の給与、生菌剤の増給	農場ごと、獣医診察	生菌剤の増給、抗生物質の投与、電解質の給与、ほ育回数増加
11	肺炎等呼吸器疾病の対応	月1回の一斉ワクチン接種	隔離施設へ移動後獣医師による診療	予防：ワクチン、噴霧消毒 治療：抗生剤	農場ごと、獣医診察	親牛への呼吸器病ワクチン接種、換気

# 飼養管理技術高位平準化の活動1

- 会員相互を視察する研修（H26 2回、H27 1回実施）
- 平成26年11月 東豊似ほ育組合・(有)カーフゲートを視察（会員・関係機関18名）
- 当日の午後に実施された技術情報交換（場長・飼養管理実務者・関係機関18名）
- 検討内容
  - ・ 代用乳の選択方法
  - ・ ほ乳プラン
  - ・ 添加剤給与プログラム
  - ・ 下痢発生時の治療内容



# 実務者技術情報交換事例

## ④ 下痢発生時の治療内容

飼養場所	病気程度	治療内容
		便水様を投与 ↑
ハッチ	i	導入日夕方はニュートリツプ <sup>®</sup> 40g+お湯800cc+ミルク800ccを給与。
	ii	水様便はニュートリツプ <sup>®</sup> 60g+お湯1500ccを給与し、次のほ乳からニュートリツプ <sup>®</sup> 40g+お湯800cc+ミルク1600ccを給与。回復してきたらミルクにビオア <sup>®</sup> (10g/回)を混合して給与。完全に回復したらミルクのみ。
	iv	ハッチは朝夕+α観察。
ロボット	i	ロボットに移動後、2週間は朝に下痢チェック。 8時に全頭子L4チェック
	ii	下痢、軟便には昼にビオア <sup>®</sup> を60cc給与。
	iii	水様便になったらニュートリツプ <sup>®</sup> 60g+お湯1500ccを1~2回給与し、翌日から通常どおりミルク給与。
共通	i	カゼが入ったときはCTC、ミコラルで対応。RSやコトナなど、重症のときはフロコール。
	ii	発熱(39.4℃以上)はカナマイシン、インドコールを投与。

※情報交換資料様式作成:(農)清流ファーム中村場長

## 飼養管理技術高位平準化の活動2

平成27年2月(農)清流ファームを視察

(会員・賛助会員・関係機関40名)

- ・受託後の増体確認、代用乳の給与量と温度
- ・へその緒処置、子牛の下痢症への対策
- ・伝染病対策など

○ 平成28年6月(株)希興、(株)シー・ブライトを視察

(会員・賛助会員、関係機関等47名)

- ・公共牧野で放牧を活用、発酵床、コクシジウム対策
- 皮膚病、導入後の哺育管理、代用乳からスタータへの移行など





# 預託農家への飼養管理技術の情報発信と子牛生産に関わる技術向上

- 平成27年2月 十勝地域ほ育育成牛管理技術研修会(於:清水町中央公民館。会員・預託農家・一般農業者・関係機関56名)

内容:子牛の死廃事故を減らす、子牛の下痢症対策

・この研修を通じて、預託農家の飼養管理改善などの協力が必要であることが確認された。

- 平成28年2月26日14:00～ 開催予定

場所:芽室町めむろーど

参集者:会員・預託農家・一般農業者・関係機関

内容:原虫対策、肺炎対策、預託牧場へのアドバイス





# 預託者向けリーフレットの作成、配布

- 預託者向けに健康な子牛を受託するために、リーフレット作成(十勝家畜保健衛生所、普及センター)

## 内容

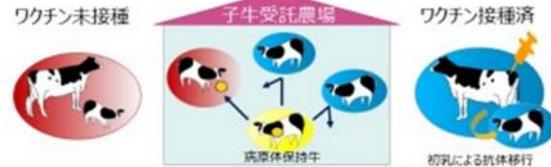
- 1 初乳を飲ませる
- 2 ワクチン接種
- 3 乾乳期管理
- 4 自然分娩

2016/1/15 預託者向け情報 十勝ほく畜産牛受託協議会

発行：平成28年0月  
十勝ほく・育成受託協議会

### 乾乳期のワクチン接種で子牛の抵抗力UP!

子牛の呼吸器病・下痢症の予防には、母牛へのワクチン接種が有効です



自家の子牛は預託農場へ預ける前に、母牛へのワクチン接種で守りましょう!

#### ワクチンの接種で抗体価を高めるために

- 母牛にワクチンを接種
  - 呼吸器病ワクチン：分娩予定の1ヶ月前に1回接種
  - 下痢症ワクチン：分娩予定の1ヶ月前に1回接種\*
  - \*妊娠牛へ下痢症ワクチン接種する場合、15ヶ月前20ヶ月前の2回接種
- 子牛に初乳を適切に与える



#### 生ワクチン接種時の注意事項

**⚠ BVDウイルスの生ワクチンは、妊娠牛に接種できません**

\*ワクチン接種に関する詳細は、かかりつけの獣医師に相談してください。

## 初乳給与のポイント

初乳が子牛に与えるもの=抗体+栄養

初乳を飲ませるときは

**良質な初乳を  
生後6時間以内に  
おなかいっぱい**



#### 良質な初乳=抗体が多い初乳

初乳とは、分娩後1回目に搾った生乳のみ!

#### 良質な初乳かチェックしよう

- ①糖度計：22%以上
- ②比重計：1.05以上 (乳温40℃程度で測る)



※初産や薄乳ではバツキが大きくなるので注意  
※低い場合は、凍結初乳や初乳製剤を利用  
※血乳や乳房炎、瀕死した牛の初乳は絶対不可

#### 凍結初乳は

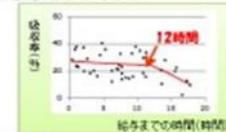
抗体を壊さないように、4.5℃以下の湯せんで溶かしましょう

#### 初乳製剤だけでは、抗体・栄養ともに不足!!

初乳、凍結初乳の給与が困難な場合は生乳と併せて使用しましょう

#### 1回目は、生後6時間以内

①子牛が飲みたがってから



②12時間以上待っても飲まない場合、強制給与

**おなかいっぱい  
=3リットル以上×2回**

2回目の哺乳も、3リットル以上を目安に初乳を与えましょう



# 管内広域協議会活動支援の意義 1

- 対象農家戸数や対象牛頭数も多く、**適確な指導**が出来れば**ほ育育成技術向上**に関する成果は**地域に波及**する

会員 8 社 構成農家 1 1 1 戸

受入頭数 4, 5 9 0 頭 (H25)

預託側 経産牛頭数約 1 0, 0 0 0 頭 (H25)

- ほ育受託会社は、広域的な組織があると**経営改善**のための様々な**情報**が入りやすい

- 中間管理職と従業員の**研修する場所と機会**が増え、技術向上のための**技術情報**を共有しやすい



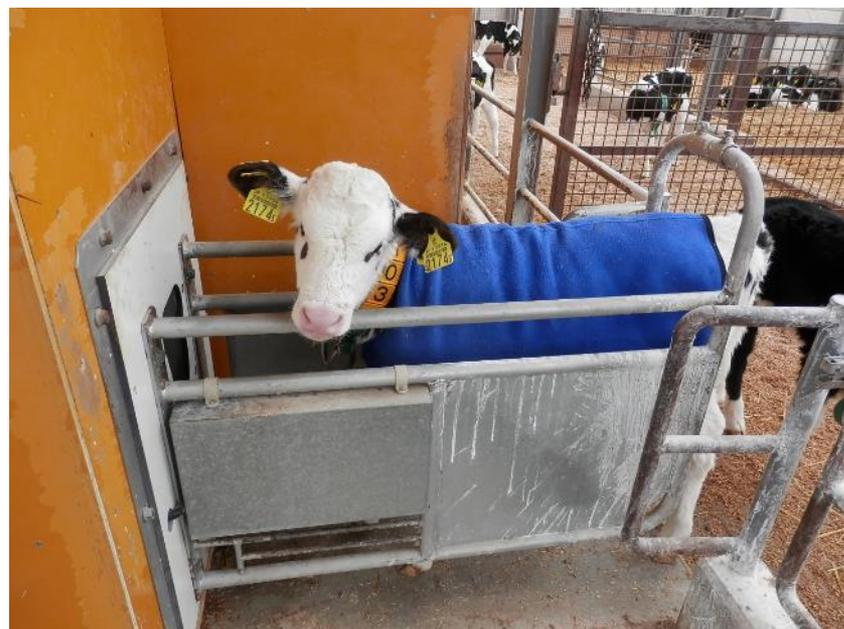
## 管内広域協議会活動支援の意義 2

- 関係機関との情報交換が多くなることで、提供される情報が的確に活用される
- 飼養管理や防疫体制などの指導内容が統一される
- 優先順位や内容のぶれがない指導が出来る
- 関係機関組織の指導人員が削減され中で、このような広域連携活動により、効率的な指導が出来る



## 協議会員の声

- ほ育受託会社が組織化されたことで、ほ育育成牛を受託している他の農場の課題が理解でき、自社の農場改善を考える上で参考になった
- ほ育管理実務者が視察先のほ育飼養状況を直接見ることで、自分の飼養管理に自信が持てた
- 顧客である酪農家の満足度を上げるために、受託会社の飼養技術力を高める必要があり、協議会活動は重要であるなどの意見が聞かれた



ご清聴ありがとうございました。

終わります

